

PRO MUSICA NIPPONIA 200 ~200の創造・未来へ~

第201回
定期演奏会
The 201st
Regular Concert

日本音楽集団

PRO MUSICA NIPPONIA

集団・∞の表現力へ
~河地良智氏を迎えて~

Toward the infinite power of our performance

2010年11月17日[水]
午後7時開演
第一生命ホール



主催：特定非営利活動法人日本音楽集団
NPO法人トリトン・アーツ・ネットワーク／第一生命ホール
助成：平成22年度文化芸術振興費補助金(芸術創造活動特別推進事業)
■日本音楽集団：<http://www.promusica.or.jp/> E-mail：office@promusica.or.jp
■トリトン・アーツ・ネットワーク：<http://www.triton-arts.net>



一、子供のための組曲 長澤勝俊作曲(1964年)

[尺八Ⅰ]宮田耕八朗 竹井 誠 阪口夕山 [尺八Ⅱ]藤崎重康 原郷 隆 大賀悠司
[尺八Ⅲ]米澤 浩 元永 拓
[三味線]杵家七三 守啓伊子 [琵琶]藤高理恵子
[箏Ⅰ]熊沢栄利子 三宅礼子 [箏Ⅱ]桜井智永 田村法子
[十七絃]宮越圭子 彦坂恵美
[打楽器]尾崎太一 島村聖香

1964年日本音楽集団の第1回定期演奏会にて初演され、邦楽アンサンブルの黎明を告げた作品。五章からなる自由な組曲で、日本楽器を媒体として生き生きと子供の世界を描きだし、素朴な旋律と律動感あふれるリズムを持つ。

1. 軽やかにのびのびと
2. ゆったりとうたう感じで
3. 遊戯唄風におどけて
4. しずかに子守唄風に
5. 激しく律動的に

二、雨のむこうがわで 4人の打楽器奏者のために／池辺晋一郎作曲(1978年)

[打楽器]仙堂新太郎 望月太喜之丞 盧慶順 島村聖香

『雨は降り、そして必ずやむ。雨はドラマを作り、ドラマを閉じる。雨は飛ぶ。雨は走る。雨は語る。屋根瓦にしみてゆく。その滲みかけの数滴の降り始めの雨滴のみを描いた絵を、好きだ。福田平八郎の絵である。雨はそのように跡を作り、そして消える。雨は、だから、はかない。他方で、石を穿つほど、強い。この作品は、雨の季節に書かれた。雨のむこうがわへつき抜けようとしつつ、ほくは雨のただなかを、通っていた。』

(1978年“ぐるーぶ・だだ”初演プログラムより)

三、邦楽合奏のための奇想組曲

♪**夢もよい…**♪ ^{たゆたふと}～唯遊湯人の詩に遊ぶ～／福嶋頼秀作曲(委嘱初演)

第1曲 春もよい… 第2曲 ヒグラシ と ヒナゲシ
第3曲 病んだ地球 第4曲 変わらぬ樫の木

指揮：河地良智(客演)

[語り]宮越圭子

[笛]西川浩平 [尺八Ⅰ]米澤 浩 [尺八Ⅱ]菅原久仁義(助演)

[三味線]山崎千鶴子 [琵琶]藤高理恵子

[箏Ⅰ]熊沢栄利子 [箏Ⅱ]彦坂恵美 [十七絃]久本桂子

[打楽器]仙堂新太郎 望月太喜之丞

異常気象にCO2排出量の削減、また名古屋での生物多様性国際会議(COP10)の開催と、昨今、環境問題に関する話題には事欠きません。こういった問題の重要性は、今後ますます高まることは間違いないでしょう。現代日本に生きる詩人・唯遊湯人氏の創作はさまざまなスタイルをとっていますが、その根底にあるのは地球の現状への危機感と生の肯定の姿勢であり、私自身も大いに共感しているところです。

今回の作曲にあたって、私は彼の詩集から4編を選び、それぞれの言葉の世界に触発されつつ、邦楽合奏と語りによる4つの楽曲を創作しました(それに際し、氏に詩の抜粋や改変をお願いし、快く応じて頂いた事に大変感謝しています)。

♪語り、といっても、そのスタイルはさまざま…楽曲によって、朗読風からお芝居風、果ては長唄ばりの歌まで取り入れ、バラエティーに富んだ日本の声の表現をお届けしたいと思っています。そして「その♪語り、に呼応しつつ、器楽がいかに豊かに表情を変化させてゆくか」といった点にも、さらに注目して聴いて頂ければ、幸いです。

第1曲は『春もよい…』。冬のある日、春の訪れを感じて気持ちがはずんでゆく。そんな様子を表現しています。

第2曲は『ヒグラシ と ヒナゲシ』。原詩の言葉遊び的な要素を、邦楽合奏らしい音遊びに置き換えることを試みました。

第3曲は『病んだ地球』という重いテーマ。地球の現状への危機感、叫びのようなメッセージが込められています。

第4曲は『変わらぬ樫の木』。サラリーマン生活を終えた主人公は、故郷の里山にある、樫の木に会いにやってきた……人はその時、仕事、家族、社会といった様々な人生模様を振り返りつつ、普遍的な存在と自分とを照らし合わせ、自分自身の存在を確認したくなるのでしょうか。そういった生の肯定の姿勢に共感して作曲したのが終曲です。

四、火の曲 四反田素幸作曲(2004年)

指揮：河地良智(客演)

[竜笛I] 藤崎重康 [竜笛II] 西川浩平

[箏I] 桜井智永 [箏II] 田村法子 [箏III] 三宅礼子 [箏IV] 彦坂恵美

[十七絃I] 久本桂子 [十七絃II] 丸岡映美

[打楽器] 望月太喜之丞 盧 慶順

2004年日本音楽集団創立40周年記念作曲コンクール第一位受賞作品。

『古来より儀式や祭礼などにおいては、火は神聖なるものの象徴的意味合いを持って用いられてきた。オリンピックの聖火などはその典型であろうが、私がこの作品で意図したことは、ゆらゆらと静かに、あるいは激しく燃え盛る炎によって呼び起される様々な情感の揺らぎ、即ち時に祈りのような純化した平穏な心の状態であり、また時にはデモーニッシュでさえあるような躍動する心象風景を、儀式的に演出された演奏空間の中に描き出すことであった。故に舞台上の楽器配置(笛を中心として、両サイドに箏群が広がって行く配置)は、音響的な理由に加えて、その意図を視覚的にも反映させようとしたものである。』

(第178回定期初演プログラムより)

五、ディヴェルティメント 佐藤敏直作曲(1969年)

指揮：河地良智(客演)

[笛] 西川浩平 [尺八I] 藤崎重康 原郷 隆 [尺八II] 米澤 浩 阪口夕山

[細樟三味線] 守啓伊子 [太樟三味線] 山崎千鶴子

[箏I] 桜井智永 田村法子 [箏II] 熊沢栄利子 三宅礼子 [十七絃] 宮越圭子 久本桂子

[打楽器] 尾崎太一 仙堂新太郎

1969年第10回定期演奏会において、横山千秋氏の指揮で初演された。

『第1楽章は長短調のシステムが強く影響しています。その頃の和楽器に対する悩みが、私には今でも手にとるように判る部分です。第2楽章は教会旋法を意識して和楽器の可能性を探った跡があります。第3楽章で少し日本の色彩が加わりました。いずれにしてもはじめての大合奏でしたので、手探りでの連続でした。』

それほど昔の作品ですが、いわゆる「邦楽」に対して、音楽に閉鎖的な印象をもっていましたので、何か開放感のある世界が描けないだろうか考えたことを覚えています。』

(第159回定期“佐藤敏直氏からのメッセージ”プログラムより)

プロフィール

客演指揮：河地良智(かわち よしり)

桐朋学園大学指揮科に学び、斎藤秀雄、秋山和慶の両氏に師事。1973年、第3回民音指揮コンクール(現東京国際指揮コンクール)で奨励賞受賞。二期会オペラやN響定期公演などで、W.サヴァリッシュ氏、O.スウィトナー氏等の副指揮者を務め、1975年、群響正指揮者に就任。1983年より文化庁海外派遣員としてドイツ・バイエルン国立歌劇場でW.サヴァリッシュ氏、ミラノ・スカラ座でG.バタネ氏等について積極的に歌劇場での研鑽を積む。帰国後、日・米・伊共同国際ワークショップにおいて「蝶々夫人」のプレジャ版を初演、二期会渡欧旅行公演同行の際には、ベオグラード・フィル、ハンガリー国立歌劇場管弦楽団を指揮する。音楽之友社の企画する「モーツァルト・オペラ全曲シリーズ」21曲全曲の音楽監督、指揮者を務める。その後、国際交流にも力を注ぎ、それらの貢献により、北京市中日交流センター、オーストリア・ブルゲンランド州、諫早市より文化特別賞等を受ける。現在、洗足学園音楽大学教授、音楽学部長、及び、同大学院音楽研究科長、東京芸術大学講師として後進の指導にもあたっている。二期会オペラ研修所講師。



福嶋 頼秀(ふくしま よりひで)

1967年群馬県生まれ、慶應義塾大学卒。邦楽器の作品を多数作曲し、日本音楽集団だけでなく、深海さとみ、藤原道山の各氏ほか演奏している。また、仙台フィル、群馬響、東京都響、東京フィル、京都市響など日本を代表するオーケストラからの編曲・構成・司会依頼も多数。2003年に世界的なチョンミョンファンが監修指揮するコンサートの構成編曲を担当しDVD化されたほか、日本を代表する指揮者・ソリスト・ポップス歌手らが演奏している。土曜ワイド劇場、月曜ドラマスペシャル、舞台の劇伴音楽も多数。今秋開催の生物多様性国際会議(COP10)の映像のための交響詩も作曲し、名古屋フィルの演奏で録音された。

<http://www.fukushima-yorihide.com/>



特定非営利活動法人日本音楽集団

【正会員】(団員)(楽器別・五十音順)

笛 智成人 ※
越竹井 浩平 (尺八)
西川 浩平
箏 原 祐二
尺八 賀藤川 重寿貴
大加阪 原藤水 三宮元米 渡胡多
悠司和山隆康(笛)
重貴八 拓浩淳
保里

三味線 江三子 ※
在原七美子 ※
在哲美子 ※
工藤 積田 弘大郎子
坂 綾田 啓伊子
穂 綾田 啓伊子
守 崎千鶴子
琵琶 藤久美子
首藤 原順子
細川 華鶴子
伊藤 麻衣子
久東 寿利子
熊沢 栄利子

桜井 智永
佐藤 里美
島崎 春美 ※
城ヶ崎 美保子 ※
田村 法恵子
彦久 木桂子
前川 美保子
丸岡 映礼子
三宅 礼子
宮越 圭子
山田 明子
渡辺 美智子
打楽器 代一昇
白杵 美智子
尾崎 坂村 聖香
島坂 新太子
仙堂 多田 忠子

望月 太喜之丞
山内 利一順
盧 慶
指揮 康男
稲田 拓男
田村 文生
作曲 岸寛久
秋川 繪都夫
篠田 大介子
高橋 久頼子
福嶋 類香
樂器・舞台 島 隆
代表 村拓男
副代表 尾崎太一

運営委員 拓 ☆
元永 川崎 絵都夫
積大 志
総務 井智 永子
久本 桂子
久保 田晶子
守啓 伊子
監事 宮田 耕八朗
事務局 中山 美穂子
中百 武幸子
永久名譽団員 長澤 勝俊
2010年10月現在
(※印は休団中)
(☆印は運営委員長)

【賛助会員】(五十音順)

【法人】
株式会社全音楽譜出版社
株式会社宮本卯之助商店
NPO法人トリトン・アーツ・ネットワーク
株式会社タービュランス
【個人】
青木 隆
青柳 堯枝
青柳 光良
青木 香英
青木 吹世
青木 達五
青木 輔子
青木 緑枝
青木 衣子
青木 正子
青木 陽子
藤田 幸治
反田 史史
須藤 浩正
須藤 正恵
須藤 仁子
須藤 徳子
須藤 重子
須藤 七子
須藤 邦治
須藤 茂子
須藤 重子
須藤 七子
須藤 邦治
須藤 茂子
須藤 重子
須藤 七子
須藤 邦治

特定非営利活動法人

日本音楽集団

〒151-0073 東京都渋谷区笹塚3-17-1 滝沢ビル302 TEL03-3378-4741 FAX03-3376-2033
ホームページ <http://www.promusica.or.jp/> E-Mail office@promusica.or.jp



アイ・エム・エス

●楽器リース ●保管 ●移動 ●ステージ・スタッフ派遣
〒167-0043 東京都杉並区上荻2-3-4 ゆうでんビル
PHONE.03-3397-2292
FAX. 03-3397-7728
URL : <http://www.ims-tokyo.co.jp>
E-mail : ims-mail@ims-tokyo.co.jp

執料に愉しむ

株式会社 琴光堂

〒152-0003 東京都目黒区碑文谷2-19-15
TEL 03(3792)8481 FAX 03(3792) 8437
URL : <http://kinko-do.com/>
E-mail : tokyo@kinko-do.com